



かがやく子ども

～自立と共生の礎を培い、今と未来を豊かで創造的に生きる子どもを育てる学校～

スクールガードリーダーをお招きし、1年生が指導を受けました。

かけがえない命を守ることを目的に、スクールガードリーダー【元警察勤務(白井忠男さん)】をお招きして、1年生の防犯教室を実施しました。不審者から命を守る合言葉『**いかのおすし**』を教えていただき、併せて交通安全についても指導を受けました。過日、幼い命が奪われたというニュースに、この上のない憤りを感じました。しかし、本市内におきましても不審者による声かけ事案等の不審者情報が届くこともあり、防犯教室だけではなく、その都度、学級指導をしなければならないと思っています。子どもたちを不審者から守り事件にまきこまれないようにと、ご家庭におきましてもお子様と話し合い、かけがえない自分の命を守る指導をしていただきますようよろしくお願いいたします。

- ①下校は、道草をしないで、集団で帰る。②防犯ブザーはいつも使えるようにしておく。
- ③不審者に危害を加えられそうなときは、大声を出す。
- ④不審者に遭遇したら、「子ども110番の家」や近くの家に駆け込み、助けを呼ぶ。
- ⑤帰宅後や学校が休みの日の外出は、行き先と帰る時刻を伝える。
- ⑥合言葉「**いか・の・お・す・し**」

- ・ ついて、**い**かない。
- ・ **の**らない。
- ・ **お**お声を出す。
- ・ **す**ぐに、逃げる。
- ・ **し**らせる。



ゲストティーチャー・サポーターに支えていただいています。

《**老上西農業合校**》老上小学校から分離して新たにできた老上西農業合校(代表…宇野四郎さん)のみなさんに、1年生の「さつまいもうえ」体験の場【5月14日】をつくっていただきました。「畝」をつくっていただいたり、マルチシート(作物の雑草防除・作物



の保温または遮熱・作物の乾燥防除)を被せていただいたり、事前から準備をしていただき当日を迎えました。子どもたちが苗を植えるとき、縦に植えるのではなく寝かすように土をかけることも教えていただきました。秋に収穫したあとは、「さつまいも」の調理の仕方を子どもたちが考え、「収穫を祝う会」など、新たな学習活動へと広がってくれることを願っています。

- ◎体験が学習を深め、学習を確かなものにする。
- ◎体験が学習を広げ、新たな学習活動づくりだす。
- ◎子どもと地域の大人が、活動を通して「つながる場」となる。

《「ぼけっと」さん》 《図書ボランティアさん》

毎週火曜日の朝（15分間）、「ぼけっと」さん（約30名）が分担しながら学級に入り、本の読み聞かせをしていただいています。1年生は毎週、2年生と3年生は2～4週間に1回と、1学期は下学年が中心です。子どもたちは「ぼけっと」さんが来校されるのを、とても楽しみにしています。読み聞かせがはじまると、子どもたちは静かな学級の雰囲気をつくりだし、自然に物語などのお話の中に入り込んでいく姿を見ることが出来ます。また昨年度に引き続き、大階段で読書に関するイベントを企画中だそうです。

図書ボランティアさんとして、約30名の方が登録していただいています。休みの時間に、本の貸出と返却のバーコード処理をする図書委員のサポートをしていただいたり、本が破れないようにと「ブッカー」を貼っていただいたり、頭が下がることばかりです。子どもたちが1冊でもたくさん本を読むようにと、1冊読めば「1枚の葉」を模造紙に貼る「読書の木」づくりもサポートしていただきました。



「ぼけっと」さんによる、本の読み聞かせ

図書ボランティアさんの貸出と返却サポート・ブッカー貼り

読書好きな子に・・・学校読書調査から

大人のだれもが、読書することの大切さを否定されないことでしょう。読書のおもしろさを知りはじめている子に、さらに読書好きな子なるよう、日常生活の中で、読書の習慣づけをすることは、大切なことです。《1か月平均読書冊数》

2017年度学校読書調査（全国学校図書館協議会）	小学4～6年生	11.1冊（1か月平均）
	中学生	4.5冊（1か月平均）
	高校生	1.5冊（1か月平均）

ところで、子どもたちはどれくらい本を読んでいるのでしょうか？全国学校図書館協議会による2017年度学校読書調査によると、小学4～6年生では、1か月に平均11.1冊読んでいます。本の分厚さや挿絵が多いか少ないかなどと1冊にも違いがありますが、3日に1冊ぐらいのペースで読んでいることになります。このペースは、学校生活の隙間となる時間、例えば、給食を待っているとき、雨のため外で遊べないとき、学習課題



が早く終わったときなどにも読書ができるようにと、身近に1冊本がある環境づくりが必要だと考えています。このことを、学校では「マイブック」の取組といい、自分の机の引き出しやから本を出せるようにしているのです。併せて毎週火曜日に「読書タイム」をつくり、「本に親しむ子」・「読書好きな子」を増やしていきたいと考えていますので、ご家庭での読書指導もよろしくお願いいたします。